

木船衛門家文書史料翻刻

京都府立大学文化情報学研究室・舞鶴地方史研究会

京都府舞鶴市の木船衛門家文書の内、箱一四・一八から近世の史料を選定し翻刻した。翻刻は、京都府立大学歴史学科文化情報学研究室、及び舞鶴地方史研究会が行った。

目次

- ①文化五年三月「異国船心得」(一四一七七四)
- ②文政二年閏四月「寅之桐実村々員数帳」(一八一四九〇)
- ③文政三年三月「組中儉約ニ附分限一札之覚」(一四一三二八)
- ④天保四年一二月「組内勘定規定帳」(一四一九五九)
- ⑤天保八年二月「奉願口上之覚」(一四一七四四)
- ⑥天保一〇年二月「永代讓状之事」(一四一三二二)
- ⑦天保一五年三月「御役所御評席ニ而在町役人席相改候記録」
(一四一八九七)
- ⑧嘉永三年四月「青谷山山論御裁許後又五ヶ村芝刈一件」
(一四一一一五)
- ⑨嘉永五年「奉願口上之覚」(一四一四九九)
- ⑩嘉永五年一月「口上之覚」(一四一四九八)
- ⑪安政二年六月「書状(大庄屋退役につき)」(一四一五九五)
- ⑫年不詳正月「書状」(一四一三九四)
- ⑬年月不詳「御領分惣百姓共江口上申渡」(一四一七七二)

凡例

- ・活字化にあたり改行を変更し、一部体裁を改めた箇所がある。また読みやすさを重視し、適宜読点と並列点を付した。
- ・漢字は原則として常用漢字を使用し、常用外漢字については正字を使用した。ただし地名・人名に関して適切と思われる場合には原史料の表記通りとしたほか、「扣(控)」・「メ(しめ)」なども原史料の表記通りとした。また「并(并)」は「并」に統一した。
- ・変体仮名や仮名合字は原則として現用字体に改めた。ただし助詞の「者(は)」・「江(え)」・「而(て)」・「与(と)」・「茂(も)」については該当する漢字を用いた。助詞の「ニ」・「カ(より)」は原史料の表記通りとした。
- ・踊り字は、漢字には「々」、片仮名には「ゝ・ゞ」を用いた。
- ・誤字は正しい字を()でくくり、脱字は(○脱)と付記した。また、慣用の漢字や当て字(「姓」と「性」など)は表記通りとした。
- ・闕字・平出・擡頭は紙幅の都合上全て省略した。
- ・印に関して、押印があるものは(印)、写しである場合は「印」、花押は(花押)と表記した。ただし割印・捨印・継目印などは省略した。
- ・表紙・包紙・端裏書などがある場合は「」でくくって表現し、(表紙)・(包紙)・(端裏書)と傍記した。
- ・その他注記がある場合は、()内に適宜表記した。

①文化五年三月〔異国船心得〕(一四一七七四)

去年中おろしや船蝦夷地嶋々江来り不埒之次第第二附、公儀より被仰出茂有之、此方様二茂海辺御領分二候得者御手当被仰付候、おろしや人之儀兼而及承候処、海内を統一する之志、二而万国之地利を察し日本之地利二茂委鋪、若狭国・丹後国者京城江近を以押来り候事茂難計候得者、重分之御手当防戦之御用意可有之事二候、於然者拳国戦防之心得無之してハ不相叶事二候間、御家中ハ不及申御軍役二随ひ候百姓共迄茂筋骨達者成者ハ其筋之働専心掛可罷在、是等ハ平生御領地二住居仕御厚恩を以安堵罷在候儀、一向御忠節与可奉存候者也

一右段々之次第第二候間、御免獵師筒并拝借鉄砲之者鉄砲之業御用被仰付候、并百姓武役二当り候者ハ荷物運送之役二可致出精候、若心得違於有之者可敷敵科者也

一今度おろしや人防之御手当被仰付候上者、兼而御家中より武具質入致置候分不残御改被成御引上二候間、不隠置差出可申候、追而者御戻シ可被下候得共、此節之儀御手支二相成候間、御忠節之筋与而相心得御用立可申候、若隠置仕又ハ難渋等願候者於有之者急度可敷敵科者也

一浜辺より御城下迄之村々寺院二おゐてハおろしや船渡来之様子見請候ハ、早々半鐘・つき鐘を鳴し村継二無遅滞可相送候、若等閑二心得候二おゐて者急度可申付者也

但し鐘之相凶之外浜辺よりハ百姓共之内以早使可致注進事、兼而庄屋共之心得二可有之者也

一浜辺之寺院并百姓家最寄之場所者差掛り陣屋二申付候事可有之候、兼而庄屋共可申達置候

但し家々明除二およハす、割合以テ御人数被差置候間、兼而其段可相心得者也

右之通可申達候

辰三月

右前書別紙尙通差添相廻し候、村々写置鉄砲所持之者ハ不及申家別江得々入念可被申付候、若不行届候得者村役人江可為嚴重候、別紙之内此節方質

素之被仰出人別老若男女二至迄奢り相慎ミ勘弁第一に急度相心得候様是旨御申付可有之候

一先納銀来ル五月六月立被仰付候、例年之通御承知御用意可有之候
一御作事纏裏共三四月分御用被仰付候間、早々御差出し可有之候、尤每度被仰付候去卯年分出不足都合致候様御取計可被成候
一拝借銀返納被致候村方、何月何日何貫何百匁と書附二而此方へ御申越可有之候

一川除御普請相済候村々此方へ致承知度候、組中相済候上拙者方案内致し、其上御見分有之候、以上

三月廿五日 大庄屋 惣右衛門

堂奥村 多門院村 与保呂村

木之下村 常村 行永村

森村 清道 天台村

上安村 濱村 溝尻村

右当月晦日迄二村々御写取被成候、右晦日中二此方へ御戻し、呉々不留置早々御順達

②文政二年閏四月「寅之桐実村々員数帳」(二八一四九〇)

(表紙)

「文政式己卯年

寅之桐実村々員数帳

閏四月 大庄屋 衛門」

溝尻村

直段石二付三拾匁二加へ

一桐実高式斗

内四合 五拾歩一上納

代札壹分式厘

堂奥村

同三拾壹匁五分九厘加へ
一同四拾壹石貳斗壹升
内八斗貳升四合貳勺同断
代札貳拾六匁四厘

多門院村

同三拾壹匁五分加へ
一同百三拾貳石壹斗貳升六合五勺
内貳石六斗四升貳合五勺同断
代札八拾三匁貳分四厘

与保呂村

同三拾匁加へ
一同貳百五拾石壹斗一升五合
内四石壹斗貳合三勺同断
代札百貳拾三匁七厘

木之下村

同三拾壹匁貳分六厘加へ
一同六石八斗
内壹斗三升六合同断
代札四匁貳分四厘

常村

同三拾壹匁貳分三厘加へ
一同貳拾八石四斗五升五合
内五斗六升九合壹勺同断
代札拾七匁七分七厘

行永村

同三拾匁貳分三厘加へ

一同四拾五石八斗貳升八合
内九斗壹升六合六勺同断
代札貳拾七匁六分貳厘

森村

同三拾壹匁貳分五厘加へ
一同貳拾壹石六斗三升
内四斗三升貳合六勺同断
代札拾三匁五分貳厘

清道村

同三拾匁六厘加へ
一同六石八斗七升
内壹斗三升七合四勺同断
代札四匁貳分三厘

天台村

同三拾匁六厘加へ
一同九石三斗七升五合
内壹斗八升七合五勺同断
代札五匁六分四厘

上安村

同三拾貳匁加へ
一同三拾四石貳斗四升五合
内六斗八升四合九勺同断
代札貳拾壹匁九分貳厘

桐実惣高

×五百三拾壹石八斗五升四合
此内五拾歩壹

拾石六斗三升七合壹勺上納
但し直段秤

代札三百式拾七匁三分壹厘

右之通村々北濱町納屋孫八郎江壳渡候所相違無御座候二付、歩壹上納仕候、
以上

卯閏四月 大庄屋 衛門

宮澤昌太夫様

荒川儀十郎様

③文政三年三月「組中儉約二附分限一札之覚」(一四一三二八)

(表紙)

「文政三庚辰年三月

組中儉約二附分限一札之覚

大庄屋 衛門組」

式拾石、三拾石位迄高持分限之覚

一新建家作へ長サ六間半限り、但し下屋とも、尤松木樑柱無用、其外物好

キケ間敷造作等無用、棟瓦・下屋・雪隠二至迄瓦葺者無用二可仕事

一蔵火除二瓦葺二致度候ハ、其段願出御免之上可仕事

一婚礼荷物長持壹棹・葛籠壹荷、其余ハ無用二可仕事

一結納帯代式三拾目位帯二而遣し候とも、右之代位不可過候扇子・樽籠肴、

又者肴代

一衣服糸嶋又ハ横物限り、大札之節計着用可申事

一献立二汁二菜焼物用無、酒肴一種吸物無用

一客来之儀ハ重毛立、親類計二而大底相済可申事

一履男女共雪駄無用、女ハ木綿花緒迄、尤奈良草履大札之節計男ハ竹の

皮限り、併草履紙花緒不苦事

一男女共足袋無用、併女ハ大札之節ハ格別、尤六拾歳已上二も相成又ハ病

身者二而村方二而相用ひ候儀ハ定外之事

一女髪之飾り絹類無用、櫛・笄・簪・鬘甲、或者銀細工等無用、木櫛・朝

鮮象ケ類二可限事

一日傘無用之事

一數代相続組内二而名前相知れ候家柄、又ハ役家之分ハ村方二而評儀之上、

何事茂程能く取計方可有之事

一豊新規二相調候義ハ無用、是迄二相求取持致居候ハ、其段役人江届ケ

出し大札之節計可相用候、平日鋪居候儀ハ無用之事

一初産之節親里より木綿初衣壹ツ・重之内壹組・樽籠肴、又ハ肴代、外親

類ハ大底肴代二而可相済、尤親元ハ貫ひ候迎重之内配り候儀無用可

仕事

一宮参り之節親元江ハ格別、其外親類之内たり共重之内配り候義無用二可

仕事

一初幟木綿ハ御制禁二候得者本家二而紙幟拵、親元ハ八鍮・樽籠肴、又ハ

肴代二而諸親類并懇意内ハ肴代二而大底ハ相済し可申事

一初雛代料一對二而四五匁位、酒肴籠、又ハ料物之事

一仏事野菜物二而一汁二菜酒ハ無用、併不目立様二して相用候義ハ定外之

事

一葬式之節ハ悔二参り候者并穴場江酒出又儀無用、尤遠方より悔二参り支

度等之節、又ハ取持人穩便二相用候儀ハ格別之事

一祭祀之節ハ随分賑々敷参詣可申候、併他村方参詣之者江料理ケ間敷義無

用、尤酒之肴壹種二可限事

一音信取遣候儀ハ大底肴代二而可相済、尤有合之品、又ハ病氣見舞二遣し

候儀ハ格別之事

一婚礼、又ハ年賀等二内祝ひとして重之内配り候儀無用之事

一日光膳・竹田椀二可限候、若所持いたし候美之品ハ大札之節計役人江届

ケ相用可申事

拾五石以下小百姓分限之覚

一新建家作へ長サ六間限り、下屋共◇但し下屋・雪隠二至迄瓦葺無用之事

一蔵瓦葺無用之事

一結納木綿一反位、扇子・樽籠肴、又ハ肴代

一婚礼荷物長持一棹限り、湯單遠慮可仕事

一献立右同断

- 一 衣服糸交り無用之事
- 一 髪之飾り右同断
- 一 履物右同断
- 一 足袋男女共無用、併女ハ大礼杯之節ハ格別、又ハ極老人、或者病氣保養之節村内ニ而不自立様相用候義ハ定外之事
- 一 初産之節木綿初衣・樽苞肴、又者料り物并重之内遣し候共、二重ニ可限候事
- 一 初幟・初雛之節親里方鍵巻本・酒肴右同断、雛ハ紙雛又ハ土人形可為事
- 一 菅笠無用之事
- 一 疊所持致居候共相用可申儀無用之事
- 一 其余者右同断
- 一 女ハ傘半蛇之目ニ可限事
- 一 水吞分限之覚
- 一 新建家作〈長サ五間半限、下屋とも〉但し茅葺無用、藁又ハ麦藁ニ可限事
- 一 結納扇子・樽苞肴、又ハ肴代たる事
- 一 婚礼荷物葛籠一荷ニ限り長持無用之事
- 一 献立平沓ツ・酒之肴一種之事
- 一 衣服之義ハ襟袖口たりとも絹類無用、帯ハ不自立様ニ染降・縮緬・横物限り、是も大礼之節計可用、平日之出合ニハ無用ニ可仕事
- 一 其余者右同断
- 一 肴代之儀者三分五分位迄
- 一 傘之儀者村役人并頭百姓分之外小百姓・水吞等ハ相用間敷義ニ候、併無抛節又ハ女ハ格別、男ハ大底之節ハ蓑笠ニ可仕事
- 一 役家并四五拾石方已上之分限ハ其組ニ而誰、又郷中ニ而も誰々と名前相知れ候家者定書相除有之候、併御制禁通りも有之候事故、万事質素儉約ニ取縮メ、只我より上下江淮シ分限ニ不過様相慎可申候、尤高二而分限定メ雖有と、村高多少ニ不限十歩一茂所持致居候者ハ頭百姓と申者ニ而、或者山畑木徳、又ハ其人ノ振廻し宜敷村方ニ而一統之ためニも相成候者ハ、全く高之高下ニも不寄候得者、其村其組内ニ而見計程能万事相定メ可申事

一 婚礼客来之儀ハ上下共当日限り、尤其時之模様ニ而翌日江打越候ハ、役人江相届ケ候上可仕事

一家来向ハ女男共、身持水吞同様之事

(中略)

右之条々村々ニ而分限を相定候上ハ少茂相背申間敷候、若違背之族御座候ハ、本人者不及申ニ村役人并組合之者取締ニ至迄落度ニ候間、如何様と成共御下知相請可申候、尤本人之儀ハ村方相談之上過料相定置申候、右ニ付組中合冊ニ相認村々組頭并取締ニ至迄為致印形一札差上申候、仍而如件

文政三庚辰年三月 取締 誰

組頭 誰
年寄 誰
庄屋 誰

大庄屋 名当

④天保四年一二月「組内勘定規定帳」(一四―九五九)

(表紙)

「天保四癸巳年

組内勘定規定帳
十二月日 組内村々庄屋中」

組中勘定規定之事

一村々御蔵尻并拝借立不足之義銘々自力ニ不及候節、御役前江立替相願御皆済為成被下候上ハ、組内ニ如何様之故障出来候共、右於拝借方へ毛頭不埒之儀為致申間敷候、勿論此段村々百姓一統承知之上名判庄屋所へ請合置候ハ、万一不埒之義申村方茂有之候ハ、組中加印役前江引請、急度勘定立可申候、且又御退役之砌リハ不納御取替ニ紛無御候候分ハ御付送り之通り後役江引請無滞り返弁可仕候、為後日之組中庄屋連印一札差出し申候、仍而如件

溝尻村庄屋 藤左衛門(印)
堂奥村同 次左衛門(印)

同断 忠左衛門(印)

多門院村同 重助(印)

與保呂村同 隱岐(印)

木之下村同 平左衛門(印)

常村庄屋 半左衛門(印)

行永村同 弥太夫(印)

同断 作右衛門(印)

森村同 喜太郎(印)

同断 平左衛門(印)

濱村同 孫左衛門(印)

清道村年寄 次右衛門(印)

上安村庄屋 太郎左衛門(印)

天台村同 利左衛門(印)

已上

天保四癸巳十二月日

大庄屋溝尻村 衛門殿

⑤天保八年二月「奉願口上之覚」(一四一七四)

奉願口上之覚

一常村御中間 七日市村 滋八

右之者共去ル十一月廿日迄対仕候二八、村内難渋人江引替可申段同人江茂得と懸合仕置被申候、然ル二八一統大切替迄引替不相成趣伝言二而申参り候得共、村内難渋人二為勤申度候間、此段幾重江も以御慈悲奉願上候、以上

天保八丁酉年二月 常村庄屋 七左衛門(印)

同断 与七郎(印)

大庄屋 衛門殿

⑥天保一〇年二月「永代讓状之事」(二四一二)

(端裏書)

「勘兵衛分森かけ山、永代讓り証文、天保十」

永代讓状之事

所ハ森かけ

一山林 杓ヶ所

右者深き因縁有之家筋二付、此度讓渡し申候処実正明白也、此山林之儀二付子々孫々二至迄毛頭申分無之候、為後日之讓状仍而如件

天保十己亥年二月 讓主 勘兵衛(印)

請人親類惣代

清左衛門(印)

衛門殿

前書之通り吟味仕相違無御座候、以上

同断 仁右衛門(印)

年寄 甚左衛門(印)

庄屋 藤左衛門(印)

右讓状書添之事

一銀札高六百式拾目也

右者今般相讓り申候山林為樽料髓二請取申候処相違無之候、然処山林讓二付樽料銀札等申請候儀者永代売二相当り公儀御法度之儀二付、万一及露頭二候者相互二及難渋二候故、此段表讓り状二相除申候二付添書相渡し申候、以上

天保十己亥年二月 讓主 勘兵衛(印)

請人親類惣代

清左衛門(印)

衛門殿

⑦天保十五年三月「御役所御評席二而在町役人席相改候記録」
(二四一八九七)

(表紙)

「天保十五甲辰年

御役所御評席二而在町役人席相改候記録

三月 大庄屋 木船衛門貞義

天保十五甲辰年

一御役所御用之節御評席二而在町御取扱之義、町方惣年寄文化年中方浪人
台被下候、年寄者薄べり、組頭筵、在大庄屋薄べり、庄屋・年寄筵二而
有之候、然二在大庄屋存候二ハ農者重キもの二有之処、却而町役人二高
席被下農家役人者御取扱輕候二付、相応二御用之御間二も相立候身分之
もの永役之志しなく、乍恐兎角退役而已ヲ願出候二付、仲間一同参会之
節左之通以口上書御願申上候

口上之覚

一在町役人之義、在方庄屋町方年寄之義、一村一町之支配可仕義二御座候
処、在方ハ業体与申田夫野人之義、奢御制禁之御主意方鹿服を用ひ諸事
昇下之心得も在之二付而者御取扱も夫二準し居候処、若きもの忤者町人
共自然百姓ヲ見下ケ候様二存、百姓之業者賤き者之様二相心得耕作之妨
とも相成、身分在之ものへ役義被仰付候而茂永役之志も無御座奉恐入候
得共、身分二而御取扱ひ之義ハ在町二不限義、何卒在町役人同様之御取
扱被成下候ハ、在役人共も永役仕、下々百姓も一同農業者人切与相心得、
耕作二可心掛与奉存候二付、此段奉願上候、以上

天保十三寅十二月 東西大庄屋中

右之口上書御下役梅垣兵右衛門殿・片山八郎兵衛殿江持參、惣代二大庄屋
衛門・兵三郎兩人罷出仲間一同存寄申上、何卒土農工商之分合二農を御用
イ被為下候ハ、鹿服鹿食之義者業体与承知仕耕作大切ト可仕哉二奉存候
間、宜敷御取成之処相願候処尤之義二而有之候得共、其後何之御沙汰無之

候二付、内々御家中古川多膳様二而衛門・兵三郎御入魂二寄兩人へ御酒被
下候二付、右在町席之義御咄申上候処尤之義ト被仰下、直二御奉行様へ御
相談有之御奉行様二も尤之義与思召被為下、辰二月梅垣兵右衛門殿二而大
庄屋兵三郎之御評席在町役人席之義、以来願之通在町東西へ席より在大庄
屋・浪人台・庄屋・年寄共薄べり被下、町方者惣年寄・浪人台・年寄・組
頭薄べり、右之通り相成候間左様一同江申聞せ置候様御沙汰二有之候
天保十五甲辰二月廿八日博奕銀之もの之義二付、大庄屋久兵衛・久左衛門・
弥五右衛門御用有之候処、御沙汰之通相改り、大庄屋・浪人台被下、弥五
郎不快二付名代薄べり、庄屋・年寄共薄べり二相成候、右御取扱永々之義
農ヲ御用ひ之思召二而右様二相成義、役義之仰付候者難有奉存候而、一同
農業大切二可心掛様常々可申付事二候、右二付三月朔日仲間参会之上、二
日二惣代兩人江御礼申上候事

御奉行

林丹下様

新開三司馬様

御下役

梅垣兵右衛門殿

片山八郎兵衛殿

牛田惣右衛門殿

大庄屋

木船衛門

安久兵三郎

梅垣西浦

高田久兵衛

齋藤久左衛門

倉橋弥五右衛門

千坂四郎三郎

⑧嘉永三年四月「青谷山山論御裁許後又五ヶ村芝刈一件」(二四一一一五)

(表紙)

「嘉永三庚戌年

青谷山へ福来村／倉谷山山論御裁許後又へ上安村／天台村／清道村」

五ヶ村芝刈一件

四月十一日ヨリ 木船衛門」

嘉永三庚戌年四月十一日八つ時

一へ池内御代官今西彦六様／志楽御官^(代肥)林徳右衛門様より仲間参会二而会所二相詰居候処、大急御用二而大庄屋衛門・兵三郎御用二付罷出候処、只今青谷肥草刈場所二而、福来村・上安村・天台村・清道村与倉谷村之者大論二相成居候趣、依之二へ大浦／志楽／池之内へ三支配之手代共五六人并御同心御差加へ二而被差出候間、衛門・兵三郎兩人共出張之衆中与一所二罷出取調候様、右二付不残福来村庄屋次左衛門方へ立寄示談之上、先大庄屋兩人争論江参候、くら谷刈取候肥草次左衛門卜迄為持帰候様、可然二付夫方兩人青谷へ参り、兵三郎八福来方打越二而くら谷・福来争ひ場、衛門ハ寺尾卜申所へ参り、天台・清道・上安江倉谷刈取候芝薪共次左衛門卜迄為持帰候様かけ合候処、三ヶ村申口青谷江入会之被仰出者承知仕候得共、銘々持場二而くら谷刈取候故、一本二而も得為持不帰、寺尾通り之道も銘々方作り候事故難通下、衛門申口何分三支配御同心御出張之事二付、くら谷刈取候芝薪共次左衛門前迄為持通候ハ、何卜哉御沙汰可有之卜、三ヶ村申口如何之被仰出二相成候共難通下、大庄屋申口返又くも次左衛門前迄不持せ候而ハ不宜卜申聞候得共、納得不致二付、夫方段々くら谷之方へもかけ合之上、左候ハ、倉谷不刈場所二而刈取候御沙汰二候ハ、此肥草三ヶ村之勝手二、又倉谷可刈取之御沙汰二相成候ハ、くら谷へ持行可申哉、此義承知二候ハ、くら谷役人卜立合二而束数相改三ヶ村へ預り可申、其上木数書付へくら谷／三ヶ村役人連名二為書付取此方へ可差出旨申渡入、則差出入、書付左之通

肥草 百式拾抱

薪 四十志抱

倉谷村庄屋 傳兵衛

上安村同 太郎左衛門

天台村同 伊左衛門

清道村同 作助

右書付直二出張之御手代方へ差出入

同夜

一支配く之御手代御聞取之有之処、矢張三ヶ村申口二ハ銘々持場へくら谷参候事難渋二付刈場江参り色々差留候得共、くら谷一向不聞入刈取候故、此寺尾道二而又々差留候故、ケ様之争論二相成候由、福来・倉谷共其支配く之御手代方御聞留有之、十一日夜凡七ツ時頃大庄屋も一所町方迄引取二相成候

后

一今田村・万願寺村・境谷村・上安久村・伊佐津村・圓滿寺村、右之村々青谷入会山肥草刈二立入候共、相成丈尾通り之肥草者不刈荒様可得心旨夫々江御達し、尤今田村へハ四ヶ村尾入之分追而及沙汰迄之処、立入可致無用旨申付候間、其段可心得旨御達し置可有之候、以上

四月十一日 今井角兵衛

今西彦六殿

駈野永藏殿

公庄貫藏殿

前

一倉谷村・福来村・上安村・清道村・天台村、右之村々青谷入会山肥草刈取之義追而及沙汰迄之処、同谷江立入之義可致無用候様、夫々江早々御達し可有之候、以上

四月十一日 今井角兵衛

今西彦六殿

駈野永藏殿

林徳右衛門殿

前書之通被仰出候間、其段早々御達し可有之候、以上

四月十一日 公庄貫藏

林徳右衛門

駈野永藏

今西彦六

大庄屋 衛門殿

同 兵三郎殿 御状十二日朝六つ時落

同 久兵衛殿

火急之義二付直ニ御達し申候

(中略)

十二日夜 被仰出候

一倉谷村・福来村・上安村・天台村・清道村、右之村々青谷入会山江立入候義可致無用旨今晚相達し置候得共、昨日及爭論候場所并道筋通路之義者致無用、其外双方共差支無之場所へハ右青谷之内たり共勝手ニ立入肥草刈取可申、尤是迄通路ハ不致来候道等通候義者不相成候間、其旨不洩様村役人共能々為申聞、肥草相弁候様可致候

戊四月

十三日四ツ時

一右惣代并御叱り之もの御用被仰出候処、福来村御調甚長ク相成日暮ニ付御用なしニ歸ル

一当組三ヶ村惣代之ものハ不殘鳥屋三右衛門江御預ケニ付、大庄屋三ヶ村之者江申口、三月御裁許之節ニ而も福来并三ヶ村之ものハ青谷ハ一円入会場ニ相違無之候得共、前々村々持場有之故くら谷も是迄之通持場ニ而刈取之心得ニ候由申立度趣ニ候、御上ニ而ハ持場扨ト申事無之、只十ヶ村一円之入会場ニ候、村々持場ト申者其村之勝手ニより自然与持場之風ニ相成哉之由調方之御咄しニ有之候、左候へハ何れ御上ハ御裁許通ニ御決有之筈、然ニ今日福来御調長ク日暮候ニ付明日之御用ト被成候、定而是ハ不抱理非かさつ致し役人を欺きたる御叱りト相察し、全体御上ニ恐入候事ハ下モ之ならひ恥敷事無之、三ヶ村共恐入候段申出候ハ、惣代方手鎖之もの迄御叱り薄可相成与色々申論し候処、三ヶ村共納得いたし候故、左候へ者くら谷村々持場ニ而刈取何れ道通り候共、妨ケ不致申哉ト押而相尋候処、決而かさつ之義ハ恐入候故妨致不申ト申二付

十四日

一朝正六ツ時牛田御氏へ参り三ヶ村之ものハ今日之御用如何之訳哉不存候得共、若十一日青谷ニ而かさつ之義ニ候ハ、此義ハ恐入候由申二付、御

憐愍之御取成奉願候ト、牛田様被仰候ニハ其段御代官へ申出候様ニ付、林徳右衛門様へ申上候処、暫ク有テ左之通

十四日昼後

一上安村外式ヶ村憐愍願之義大庄屋申出候趣承り届ケ、此度之処ハ下ケ遣候間、其段大庄屋へ御達し可有之候、右之通御沙汰有之候、此段相達し候様御代官被仰出候、右ニ付三ヶ村へ申達し八ツ時過二町引取ニ候得共、肥刈之義ハ御沙汰有之候迄不相成旨村々へ承知ニ而歸ル

一福来村論所肥草之義ニ付、御代官御談し被成度義有之候ニ付、此書状着次第御出町被成候、尤右之訳合ニ付代人ニ而ハ難相分候間、此段御承知可被成候、以上

四月十六日 梅田辰蔵

山雄伊右衛門

大庄屋 木船衛門殿

右ニ付罷出候処、御代官今西彦六様被仰聞候二者、大庄屋兩人青谷ニ而取計置候福来并天台・清道・上安四ヶ村役人預り置候肥草之分、御奉行所方銘々迄ハくら谷方取ニ可遣御沙汰ニ候得共、上ミ之命トハ乍申夫ニ而ハ大庄屋取計候段反古ニ相成候故、双方不角立様致し度事ニ候、尤御奉行所ニ而ハ裁許之筋ニ候共、又大庄屋其場ニ而取計之場も有之候得ハ、兵三郎ト示談致可然ト、右ニ付直ニ同役兵三郎殿へ参り御代官御沙汰通りヲ咄し居候内、くら谷役人江兵三郎殿申口、衛門てハ遠方村有之福来村江入牢もの旁々故、彼是申内肥草延引ニ相成候ニ付、当組方近在役人ニ而も差出し候故、賃銭ハ差出候得者くら谷人并安久人扨ニ而今日ニも取仕、且明十八日肥刈取ニ相成候様致し可然ト色々被申聞候得共、倉谷庄屋へ傳兵衛ノ六兵衛へ申口、夫ニ而ハ銘々役前不立申ニ付村方へ相談仕度ト申歸ル、但し衛門者くら谷役人へ少も不出合

一夫々兩人御代官彦六様へ参り次第御咄し申上候内、牛田御氏方召状参り候写し左之通

一此間中も御苦勞ニ存候、扱又早々山入ニ可相成候、右ニ付得御意度有之候間、早々御出町可有之候、以上

四月十七日 牛田物右衛門

木船衛門殿

安久へも同様参り候由

右二付兩人同道二而御役所へ参り候処、牛田御氏被仰候二ハ貴様共心配無之様くら谷望之通奥福来を肥草持通り可申候旨御代官へ達し置候、早々取調へ山入二相成候様之御沙汰二付又々御代官へ参り候処、御達し左之通り

大庄屋

〈木船衛門ノ安久兵三郎〉江

当十一日倉谷村之もの青谷入会山二而刈取候草荷、福来村外三ヶ村を差留候節、右草荷者四ヶ村江預ケ其場二止置候様取計之趣ニも相聞候得共、入会山二而刈取候草ニ在之候得ハ、持歸り候而子細無之事ニ候間、裁許之通可為致候

四月十七日

×倉谷村

福来村

上安村

天台村

清道村

右之村々青谷入会山二而肥草刈取之義可致無用旨相達置候得共、明十八日ハ刈取申付候間、兼而相達し置候通場所ニおゐて取争ひ等之義無之様可心得旨可被申達候

四月十七日

右二通御月はん二付今西彦六様二而被仰渡候

右之通御達し有之候得ハ、兩人咄し合致とんと御達し通二相達し可申与今西様被仰候二者、裁許之義ハ有之候得共、是二而ハ角立候方之旨御深切之処御案じ二付、左候ハ、安久辺方雇人ヲ拵へ賃錢ヲ出し、くら谷へ為持、五組方役人壹人ツ、差出し、薪草共くら谷江為渡候哉、又ハ福来・上安・天台・清道を福来村庄屋次左衛門前迄為相揃、へ但し三支配御手代并御同心方同人宅へ出張二付くら谷役人へ相渡させ候哉、其上くら谷此荷之事ヲ故障申立候ハ、御役所を御沙汰候通相達し可申二取究メ、安久御氏へ變り相頼上安村庄屋兵左衛門殿へ得与為吞込安久氏之差図を請諸事取計之旨咄置、衛門ハ十七日はん方宅へ引取候

四月十七日

一衛門引取後、太郎左衛門・兵三郎殿二何角咄し居候間、又くら谷役人安久へ参り段々六ヶ敷申募り、夜分二至候得者大勢詰懸ケ口々ニ申立中々容易難相濟二候

同十八日

一御上方被仰出二者、積置有之芝之義ハ次にして、山明者可致二被仰出候、然二又くら谷役人并百姓安久へ参り倉谷申口福来村ハ不歸申、天台・清道・上安之役人くら谷役宅二而立合芝薪共受取不申候而ハ承知不致ト申募り候故、如ケ様ニ論し候而も無益之事ニ付弥々差出し候二相決、則兵三郎殿御藏近所迄被参候処、上安庄屋太郎左衛門跡を追かけ何卒相濟工夫ハ無之哉ト申二付、夫今田・別所・上安久杯四ヶ村役人大庄屋兵三郎殿へ呼出し、組役人貫ひ之相談ニいたし、則福来村ハ安久之人ヲ雇ひ、倉谷役宅迄天台・清道・上安ハ大内之人ヲ雇ひ九人罷出、壹人四匁五分ツ、二而青谷を福来村迄為持出、夫安久之人二而くら谷役宅迄当組三ヶ村分芝薪合百六十壹抱也、尤福来・上安・天台・清道役人ハ壹人も不差出、兵三郎組四ヶ村役人二而相談又積り也

右之通地組いたし

同十九日昼前

一安久組役人四人倉谷村江立会前書之通、福来・上安・天台・清道役人ハ少も不差出候得共、くら谷模様内聞いたし候処、衛門くミ三ヶ村之分ハ四ヶ村役人貫ひ二候ハ、相濟趣二候得とも、くら谷を福来へ之趣意甚深ク如何扱ひ候而も福来役人不出内者くら谷承知不致儀困り候処、大庄屋ハハ弥々くら谷申募り候ハ、差上ケ二可致旨書状両度参り候二付、既ニ其場二可相成処、漸四ヶ村役人酒四斗貫事濟いたし、芝薪共受取渡し相濟候由、誠二くら谷村之もの人情薄ク相聞候

⑨嘉永五年「奉願口上之覚」(一四―四九九)

(端裏書)

「孝心書出 定七女房 よつ

与保呂上村」

奉願口上之覚

無高

一年四拾九 定七

一年三拾五 女房よつ

一年七拾壹 母

女房鹿原村太右衛門方を参り申候

嘉永五壬子年 与保呂村庄屋 又右衛門

同断 重右衛門

大庄屋 木船衛門様

⑩嘉永五年一月「口上之覚」(二四—四九八)

口上之覚

無高

一年四十九 与保呂上村 定七

木挽少々并荷物

一同三十五 女房 よつ

此者鹿原村太右衛門方を参り申候

一同七十壹 母

生年七十九

此もの上村市右衛門方を参り申候

×三人

右之もの近年來何角不都合続二御座候而甚難渋もの二御座候、殊二母も老病寺々下作等も不任心二、貧窮之中にも女房よつ母を大切二仕候事、近在迄も相聞へ候趣誠二実体成者二而、村方之手本共可相成与近所二而も申居候由承知仕候二付尚承り記候処、別二以行状書可申上程之義も無御座候得共、前書之通相違無御座候二付、此段申上候、以上

嘉永五壬子年十一月 大庄屋 木船衛門

公庄貫藏様 一通

御下役三人連名 一通

⑪安政二年六月「書状(大庄屋退役につき)」(一四—五九五)

安政二乙卯年五月晦日御用席有之二付御代官并御下役手代方へ参り、衛門義及老年近來氣分衰へ御用事忘れ候方二被成、日々安心難成二付、御役御免御座候様御取成し候旨願置候

一六月五日、御代官を御達被成度由手代方を御沙汰二付罷出候処、御代官被仰候二ハ先日内願之次第奉行所へ申上候処、外大庄屋中も新役多、殊二若キものも有之故、上二も御安心難被成二付、永々之勤役故退願尤二者候得共、せめて來年迄乍大義為勤度段銘々上二方後日咄いたし候様二候間、來夏之処相勤可申様、衛門申上候ハ不勝之私年來之御懇命、殊二此度迄之御厚情冥加至極難有奉存候、然共余り恐多二付今日ハ御答不申上帰宅可仕、尚後日二幾重二も御免之御取成可奉願上卜歸ル、但し御下役方も御奉行方之御沙汰之由同様御申二付、御代官へ申上候卜同様二願置歸ル

一同廿一日、出町いたし何分気分勞れ眼中遠見薄ク相成候二候付、不調法仕候而ハ恐入候二付、幾重二も思召ハ厚ク難有奉存候へ共御役御免御座候様御取計奉願候、右代官御下役へ委ク願候処、未夕調金之跡六ヶ敷旁々察入候様二者、又々此段可申上候、但し御代官未夕内願相濟候二而も無之候得共、先口上書此方迄差出し置可成候

(中略)

大庄屋 木船衛門

衛介

右之通明後九日四つ時御用之義有之候間、立会所へ御越可有之候、以上

七月七日 高嶋甚介

福井六右衛門

大庄屋 木船衛門殿

然御用状参候処、衛門少々風邪二付名代衛助罷出候処

御奉行

田中求馬様

圓城寺市右衛門様

御代官

公庄貫祿様

山本丹右衛門様

御下役

田中儀右衛門殿

梅垣其右衛門殿

御手代

福井六右衛門

宇野小介

出席者無之候へ共記置

高嶋甚助

小旗忠右衛門

右御立会ニ而衛門名代大庄屋八左衛門へ被仰渡木船衛門義、永々勤役之処、願之通被成御免、尤永々之勤役ニ付御目録被下ト、分銀一枚ト外ニ銀貳枚都合三枚被下候、前々方銀一枚方貳枚之例者有之候得共、三枚之例不承由、大庄屋会所ニ而噂有之由、右御目録被下候上、衛門義へ年頭御目見へ御往来御目見へ被仰付候

⑫年不詳正月〔書状〕(一四—三九四)

乍略儀以使札奉啓上候、春寒難凌御座候処、尊家増御安泰御座候被成候半奉珍重候、然者下拙支配内市野瀬村惣八与申すもの、去冬其御地溝尻村溜池之近所ニ而所持之鉄炮筒拔致し候趣被仰聞、早束呼出し及吟味候処其儀相違無御座趣、尤在家中へ玉込持通り候義を相憚ふと取計ひ候義ニ相聞候得者、甚以心得違之段不届千万急度呵を申付候義ニ御座候、且亦御隣組字明神浜与申処ニ而其前後ニ鉄炮を打逃り去り候者有之趣と被仰聞、此儀者旧臘此方地頭へも相聞候而急度咎メ被仰付候義ニ御座候へ者、追々不埒成儀恐入奉存候、何卒宜御取調被成下其御上表御沙汰之砌ハ可然様御取繕被成下、品能内濟仕候様奉希候、右御報申上度如斯ニ御座候、何分ニも宜御賢察御頼申上候、恐惶謹言

正月廿一日

志馬太左衛門

木船衛門様

直右衛門事

⑬年月不詳「御領分惣百姓共江口上申渡」(一四—七七二)

(端裏書)

「年号なし、宝暦之頃ト承ル」

御領分惣百姓共江口上申渡

此度百姓共致一党罷出追々多勢之氣に乘し狼藉成拳動共、其上無道法外之願筋一々義理に相背、年来之御恩を忘れ御城下をも騒かし、天道之冥加御上之恐を不顧之段其科甚不輕候、第一公義之御法度を相背候一条御上之御了簡等も御済し難被遊、下として何分申訳ケ難立事ニ候、然れども悪党之誘引同心不致候得者、理不尽之ふるまいに急難無抛存心ならず罷出候者共之上不便思召、差懸る所者御慈悲を以理非無御貪着一旦願之通御聞届安堵被仰付候此度之趣、我候千万成願筋元より不相成事与存之上故、一党仕無理非法を申上候不届ニ而願御許容に時を得御下ニ安住仕候、心底盤り有之者天罰無通事に可有之処、第一に心底を相改善道に趣、先非誤入奉恐候而早速願下ケ訟出候段者重畳之義、此所者奇特神妙之儀に思召願下ケ御許容被遊候、下々難儀之所者御不如意ながら御惠美深き思召にて御救之次第被仰付候間、謹而難有奉承知、此度者まことの安堵落着可申候、畢竟御上御立被遊候而の下ニ候得者、随分冥加を奉存風俗正道に末々無異論農業精を出し御恩を報し候様に可仕者也

表紙の解説

	1	2	3
5		4	
(裏)		(表)	

- 1 「まるまる舞鶴」WEB
- 2 日下安左衛門家相図(部分、木船衛門家文書 17-233)
- 3 舞鶴地方史研究会との共同調査 長谷川巴南撮影
- 4 東舞鶴港俯瞰(多祢山からの展望) 松岡秀雄氏撮影
- 5 東舞鶴高校での授業風景 長谷川巴南撮影

京都府立大学文化遺産叢書(2008～ 京都関係)

- 1 南山城・宇治地域を中心とする歴史遺産・文化的景観の研究
- 3 八幡地域の古文書と石清水八幡宮の絵図:地域文化遺産の情報化
- 4 八幡地域の古文書・石造物・景観:地域文化遺産の情報化
- 5 丹後・宮津の街道と信仰
- 6 城陽市域の地域文化遺産:神社・街道の文化遺産と景観
- 9 和束地域の歴史と文化遺産
- 10 石清水門前寺院・南山城地域の古文書:京都府歴史資料の調査
- 11 舞鶴地域の文化遺産と活用
- 12 「丹後の海」の歴史と文化
- 14 舞鶴・京丹後地域の文化遺産
- 16 舞鶴の地域連携と世代間交流:井上奥本家文書調査報告
- 18 京都東山・三嶋神社文書調査報告
- 19 京都雲ヶ畑・波多野六之丞家文書調査報告
- 20 綾部地域における文化資源の発掘と継承
- 21 京都山伏山町文書調査報告
- 22 あのころの雲ヶ畑:京都雲ヶ畑写真資料調査報告
- 23 文化財の保存活用と地域コミュニティ
- 26 京丹後市久美浜町太刀宮文書(久美浜代官所郡中代文書)・佐治家資料調査と御用留横断研究
- 27 君尾山光明寺文化財調査報告・由良神社文化財調査報告
- 28 夜久野の後期古墳と末窯跡群



京都府立大学文化遺産叢書 第30集

舞鶴木船衛門家文書調査報告 京都府北部 MALUI 連携事業

編集 東昇
発行 京都府立大学文学部歴史学科
〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5
発行日 2024年3月31日
印刷 株式会社サンエムカラー
〒601-8371 京都市南区吉祥院嶋檜山町37